

第3回 広島大学SDGsシンポジウム

保険業界の多様な取り組みと大学 とのコラボレーション

2019年2月11日

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス
総合企画部 サステナビリティ推進室 浦嶋 裕子

MS&AD

INSURANCE GROUP

Section # 1

MS&ADインシュアランスグループについて

MS&ADインシュアランス グループについて

5つの保険会社・商品

損害保険

三井住友海上
安心のゴールキーパーでありたい。
GK
クルマの保険

あいおいニッセイ同和損保
TOUGH

三井ダイレクト損保
三井ダイレクト損保の
自動車保険

自動車
保険

火災
保険

海上
保険

自賠責
保険

傷害
保険

その他
(賠償責任保険等)

生命保険

三井住友海上プライマリー生命
 個人年金は、
未来への贈りもの。

三井住友海上あいおい生命
& LIFE
アンドライフ

定期保険

終身保険

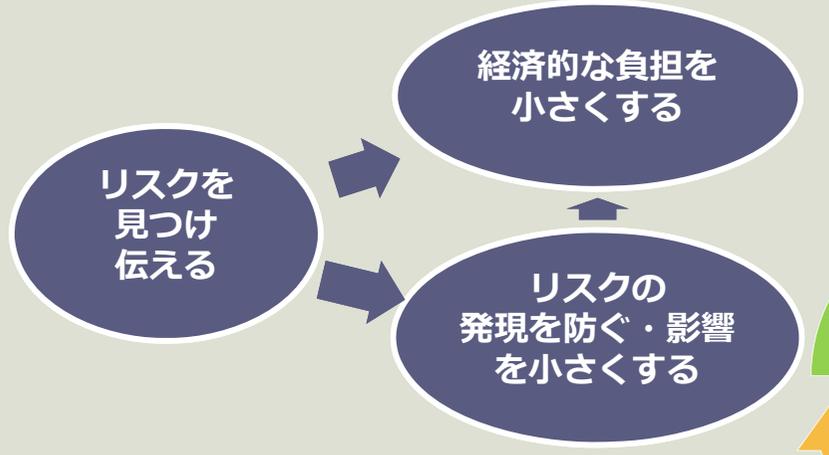
医療保険

年金保険

その他

中期経営計画「Vision 2021」と価値創造ストーリー

MS&AD's 価値創造ストーリー



企業のお客さま

- 製造業
- 小売業
- サービス業



2030年に目指す社会像 レジリエントでサステナブルな社会

7つのCSV/重点課題と関連する主なSDG

新しいリスクに対処する

レジリエントなまちづくりに取り組む

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

17 パートナーシップで目標を達成しよう

事故のない快適なモビリティ社会を作る

10 人や国の不平等をなくそう

12 つくる責任 つかう責任

「誰一人取り残さない」を支援する

1 貧困をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

16 平和と公正をすべての人に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

社会

CSV

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

2 飢餓をゼロに

「元気で長生き」を支える

自然資本の持続可能性向上に取り組む

15 陸の豊かさも守ろう

14 海の豊かさを守ろう

気候変動の緩和と適応に貢献する

13 気候変動に具体的な対策を

6 安全な水とトイレを世界中に

自然環境

Section # 2

大学との研究連携プロジェクト

–“LaRC-Flood_{TM}プロジェクト” 東京大学・芝浦工業大学

–“Eco-DRRの評価と社会実装” 総合地球環境学研究所

- ・東京大学 C O I「持続可能な健康長寿社会」実現に向けた取り組み
- ・東洋大学情報連携学部(INIAD)と「デジタルイノベーションを担う人財育成」の提携
- ・群馬大学と「次世代モビリティ社会実装に関する研究」の提携

Large-scale Risk assessment of Climate change for Flood

MS&AD、東京大学、芝浦工業大学の三者で「気候変動による洪水リスクの大規模評価」を行うことを目的に、立ち上がったプロジェクト。



芝浦工業大学
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

平林 由希子 教授

- ・地球温暖化と水循環の変化
- ・世界の長期水循環シミュレーション



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

山崎 大准教授

- ・全球地表水動体
- ・陸域水文モデリング
- ・地表水衛星観測
- ・水文地形データ解析

MS&AD

INSURANCE GROUP

MS&ADインシュアランスグループ
ホールディングス

MS&ADインターリスク総研



東京大学
生産技術研究所

MS&ADインターリスク総研株式会社
MS&AD INSURANCE GROUP



芝浦工業大学
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927

MS&AD、東京大学と芝浦工業大学との
気候変動研究プロジェクトを開始
～気候変動による洪水リスクへの影響をグローバルに評価～

2018年5月16日

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社
MS&ADインターリスク総研株式会社
国立大学法人東京大学
芝浦工業大学

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社（社長：柄澤 康喜）、MS&ADインターリスク総研株式会社（社長：村戸 真）と国立大学法人東京大学（総長：五神 真）、芝浦工業大学（学長：村上 雅人）は、「気候変動による洪水リスクの大規模評価（LaRC-Flood™）」プロジェクトを本日から開始しました。

また、プロジェクトの一環として「気候変動による洪水頻度変化予測マップ」を本日より一般公開します。

1. 研究の背景

近年、世界の平均地表気温は上昇しており、産業革命前と比較して1℃程度高いレベルに達しています。今後、気候変動がさらに進行することにより、世界的に洪水リスクが高まり、企業経営にも大きな影響を及ぼす可能性があります。

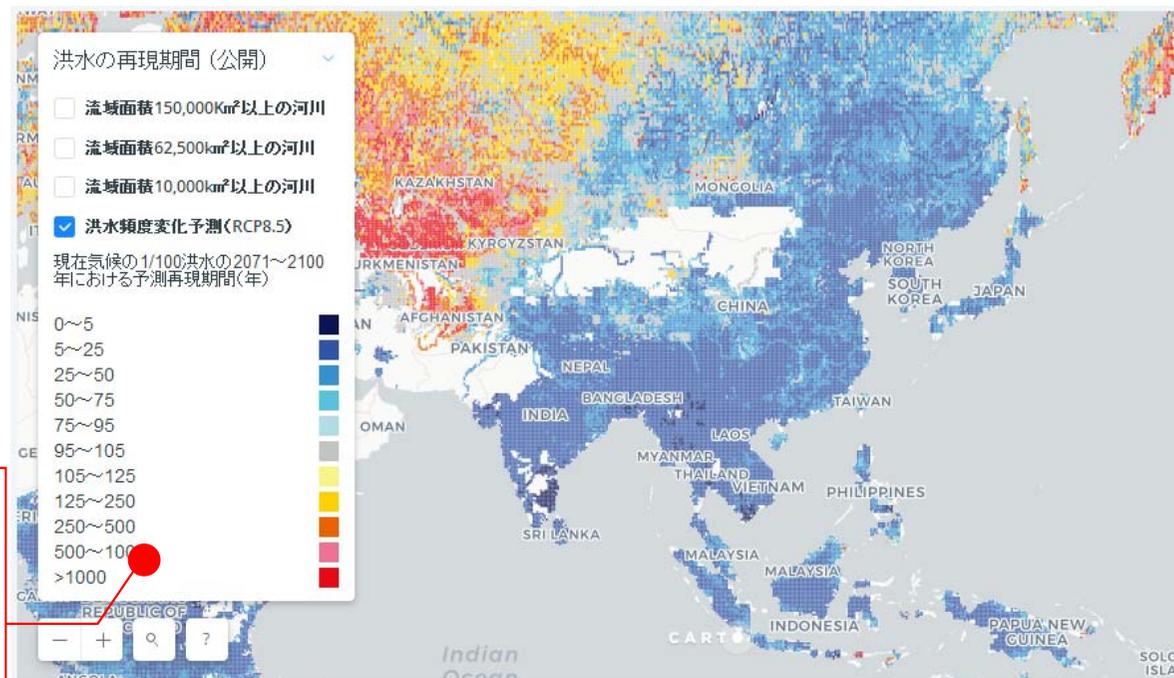
MS&ADインシュアランスグループでは、保険会社として自然災害への対応と防災減災への取組を推進しています。特に、気候変動に関しては、長年グループ全体で取り組んできた課題であり、未来のあるべき社会の実現に向けて、産官学連携を通じた社会的課題への解決に注力しています。

一方、芝浦工業大学工学部の平林 由希子教授、東京大学生産技術研究所の山崎 大准教授は、2013年に将来の世界の洪水リスクの変化を推計¹し、「気候変動に関する政府間パネル第5次報告書（IPCC-AR5）」においてその成果が紹介されるなど、本分野について多数の実績を有しています。

そして、本日から開始した本プロジェクトでは、四者が共同で、気候変動による洪水リスクへの影響評価の研究および研究成果の社会への還元を目指し、以下の取組みから着手する計画としています。

「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書」でも紹介された
“Global flood risk under climate change”の研究結果をweb-GIS上で閲覧できる
プラットフォームを開設。

グローバルに気候変動による洪水頻度の変化の度合いを見ることが可能。
(利用登録により無料で閲覧)



マップ上では、20世紀末（1971～2000年）に100年に一度の確率で生じる洪水が、21世紀（2071～2100年）に何年に一度の頻度で生じる可能性があるかを表示します。

マップへのアクセスはこちら

<http://www.iriic.co.jp/LaRC-Flood>

本サービスは以下の論文の成果に基づいています。

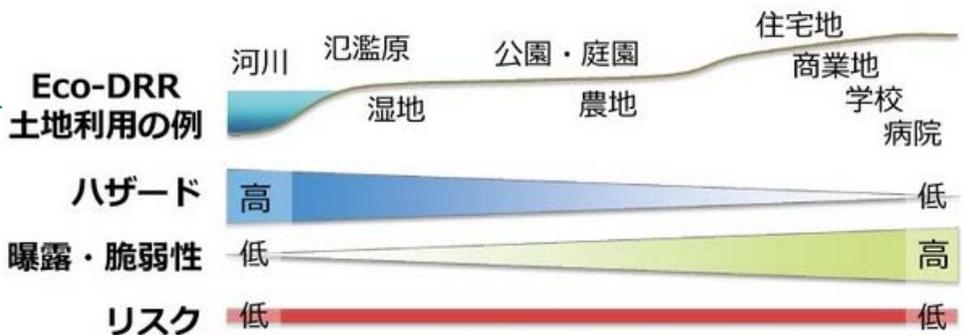
Hirabayashi Y, Mahendran R, Koirala S, Konoshima L, Yamazaki D, Watanabe S, Kim H and Kanae S (2013) Global flood risk under climate change. Nat Clim Chang., 3(9), 816-821. doi:10.1038/nclimate1911.

Eco-DRRの評価と社会実装 実践研究プロジェクト

人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災の評価と社会実装 (Eco-Disaster Risk Reduction)

- 自然災害リスクの可視化 (過去・現在・将来)
- Eco-DRR多機能性の評価・予測
- 超学際的シナリオ分析とEco-DRR利用の社会・経済的インセンティブの開発

自然災害リスク = ハザード × 曝露 × 脆弱性
 (e.g. 洪水) (e.g. 土地利用) (e.g. 建物構造)



大学共同利用機関法人人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

第1グループ
 自然災害リスク評価

第2グループ
 多機能性評価

第3グループ
 制度・インセンティブサブグループ

ECO-DRRを実装するための保険・金融の可能性



その他の連携について

東大COI (Center of Innovation)、自分で守る健康社会拠点 との提携

「医療データ基盤の整備、エビデンスに基づいた将来リスクの予測、革新的な予防・未病対応による行動変容の推進」による新しい社会システムの構築の研究

- リスク予測モデル
- 健康リスクの可視化
- カスタマイズされた行動変容アドバイス



東洋大学情報連携学部(INIAD)との提携 – デジタライゼーションを担う人財の育成 【三井住友海上】

以下、3つのコースからなる当社専用の研修プログラム「MS デジタルアカデミー」を創設

- 「ビジネスデザインコース」：デジタル事業創造人財を育成
- 「データサイエンティストコース」：多種多様なビジネス課題にハイレベルな分析業務を遂行
- 「ビジネスデータサイエンティストコース」：データ分析手法を理解し販売系データの分析業務を遂行

群馬大学との産学連携提携 – 「次世代モビリティ社会実装に関する研究 【あいおいニッセイ同和損保】

完全自律型自動運転を可能とする次世代モビリティの社会実装・実用化に向けて、次世代モビリティシステムの研究開発、社会実装、人財育成について、連携して研究

東北大学大学院国際文化研究科「グローバルガバナンスと持続可能な開発プログラム（G2SD）」の寄附講義の開講



東北大学 SDGs シンポジウム
持続可能な開発目標（SDGs）の達成とグローバル人材

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、グローバル人材の育成という観点から、日本として、政府として、あるいは大学、地域、企業、市民として何が出来るか、とりわけ、東日本大震災など災害の経験も踏まえ、世界にどのような発信ができるか、産学官地域のそれぞれの立場から議論します。

基調講演

国谷 裕子	キャスター、東京藝術大学理事 / 鹿児島大学特任教授
今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所所長・教授
末吉 竹二郎	国連環境計画・金融イニシアチブ (UNEP FI) 特別顧問、公益財団法人自然エネルギー財団副理事長

2018年 **12/21** 金
 13:00~17:30 (受付開始 12:30)
 参加無料・定員 700名



国谷 裕子 くによろこ

キャスター、東京藝術大学理事 / 鹿児島大学特任教授
 米ブラウン大学卒、NHK 衛星放送「ワールドニュース」のキャスターを経て、1993年から2016年までNHK「タロウズアップ現代」キャスター。現在、SDGsの取材・啓発活動を行っている。自然エネルギー財団理事、国連食糧農業機関副所長も務めている。02 年新池賞、11 年日本記者クラブ賞受賞、著書に「キャスターという仕事」(岩波新書)。



今村 文彦 いむら ふみひこ

東北大学災害科学国際研究所所長・教授
 東北大学大学院博士後期課程修了。同大学院工学研究科附属災害制御研究センター助教授、同教授を経て、2014年より現職。専門は津波工学・自然災害科学で、津波被害の軽減を目指す、津波予警報システムの開発や太平洋での防災対策等の研究を数多く実施。津波数値技術振興国際プロジェクト TIME の代表、中央防災会議専門調査会委員、東日本大震災復興推進会議検討委員会、主幹委員、NHK 放送文化賞（平成 26 年）、文部科学大臣表彰（科学技術振興部門、平成 27 年）。



末吉 竹二郎 すえよし たけじろう

国連環境計画・金融イニシアチブ (UNEP FI) 特別顧問、公益財団法人自然エネルギー財団副理事長
 長年の金融界での経験をバックに「金融と気候環境問題」をテーマに、金融のあり方やCSR経営などについて、講演、執筆、著書などで啓蒙に努める。



須藤 敏雄
 国際協力機構 (JICA 東北) 所長



渡美 肇
 宮城県東部総合庁長



飯野 まどか
 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GFT) 代表理事



藤井 史晴
 MS&AD インシュアランスグループ
 ネルディンダス株式会社
 取締役 副社長執行役員 グループ CFO



劉 慶秀
 東北大学大学院
 国際文化研究科教授

ご清聴 ありがとうございます